

日本語学科専門科目「日本語表現研究Ⅰ・Ⅱ」の 学修内容の変遷

The Changes in the Course “Japanese Expression Study” in the Department of Japanese

大池 公紀

OHIKE Kiminori

キーワード：日本語表現研究 日本人学生と留学生 交流 留学生 日本語教育

I はじめに

この研究発表では、明海大学外国語学部日本語学科で専門科目として設定されている「日本語表現研究Ⅰ・Ⅱ」の特異な位置付けと2017年から2020年度までの4年間の変化について論述する。論の柱は、以下の2本である。

- (1) 2017年から2020年まで履修学生の変化
- (2) 履修学生の変化を受けて学修内容の変容

II 2017年から2020年まで数字から見る 履修学生の変化

I 日本語学科における「日本語表現研究Ⅰ・Ⅱ」 のコンセプト

日本語表現研究Ⅰ・Ⅱは、明海大学外国語学部日本語学科で履修科目として設定されている共通科目、専門科目、教職科目の内、専門科目として設定されている。履修学年は、シラバス上では1年と表記されているが、実際には1年から4年生まで履修が可能な科目である。私大池が担当し始めた2017年は、ビジネス関連の基礎的な習慣・ルール・

TPOを学修する基礎科目であった。

2 数字から見る履修学生層の変化

この4年間の特筆すべき大きな変化は、高等教育においてアジアを中心とする留学生が増加したことによる国際化によって留学生の占めるパーセンテージが10%前半から35%前後になったことである。それは、2020年のコロナウイルスによって大きく変化するものと考えられたが、ZoomやYouTubeなどの活用によってその%には大きな変化はみられなかった(資料1)。2017年の前期が履修学生16名の内1名、6.3%。後期は1年生4名18.2%。前後期の平均は履修生38名の内5名が留学生ということで13.2%が非日本人学生であった。同じように並べると、2018年度、前後期合計履修生37名の内9名24.3%。2019年度、全履修学生67名の内24名35.8%。2020年度、コロナ禍ではあっても履修学生36名の内13名36.1%の留学生が履修をしていた。

この2年間は、教室に留学生が在籍していることが前提となった講義を展開している。授業者としてもその変化は、真摯に受け止めるとともに履修している日本人学生もこの科目には留学生が多いことを承知で履修希望を出してきた。

留学生は、年度によって若干のパーセンテージの変化はあっても、多くは中国国籍もしくはベトナム国籍の学生であった。例外的にインドネシア国籍の学生が18年度に1名履修をしていたが、実際には中国系学生であった。留学生は、それぞれ国別のネットワークで履修科目の情報集めており、その情報は代々引き継がれている結果、継続的に中国及びベトナム国籍の学生が履修することとなっている。

3 履修学生層の変化を受けて学修内容の工夫

(1) 2017年度学修内容

日本語表現研究Ⅰ・Ⅱは、日本語学科の基礎科目である。元来この科目は、特に留学生を対象としたものではなかった。以下に2017年度日本語表現研究Ⅰのシラバス「授業の概要」を提示する。「様々な表現を活用して基礎的コミュニケーション能力の向上に必要な知識を能動的に学修する」ことを主にし、結果的には「コミュニケーション能力の向上」を目的にしていた。

テキストは、『コミュニケーション技法——自分を大きく見せる話し方——』（ウイネット）『使うことば——大学生、社会人の日本語応用力を伸ばす——』（研究社）の2冊を使用していた。特に『コミュニケーション技法——自分を大きく見せる話し方——』の「指導の手引き」には、この本の活用目的として「なぜあいさつするのかについてじっくりと考えてもらい、実習を交えながらそれを体得させ、人と豊かにコミュニケーションできる人間を育成

することに主眼を置いている」と述べられている。内容的には、話すことの重要性、自分の考えを正しく伝えることの大切さを再認識し、ビジネスシーンや社会生活の中での「話し方」を学び、「聞く」ことの基本を理解し、実践的なコミュニケーションの技法を身につけることを目的とするなど実利的項目が並べられている。留学生と日本人学生とがこのテキストを学習することによって文化的な交流を促進することは、テキストの目的としてはあげられていなかった。

その結果、シラバスの講座の学修構成細部には、前期は「学生としての正しい言葉遣いを知る」「若者の言葉とバイト言葉」のように現代の日本を考え、「ビジネス会話の表現を知る」「ナンバリングを使って話す」などが置かれ、後期は前期の学習を踏まえ「説得力のある意見文を書く」「論理的な意見文を書く」「説得力のある論理的な意見文を書く」など、学生が社会に出た際に活用できる「ビジネス」表現などを意識した構成であった。

しかし、2017年度の授業者としては、これらの学修内容が時代の要求するものと若干乖離した感があり、既に2017年度内の学修でもコミュニケーション能力の向上を図るゲーム形式のプログラムを加えて進行させていた。

(2) 履修学生の実態に応じた学修内容の工夫と

2019年度シラバスの変更

2018年度に大きな変化が見られた。「日本語表現

日本語表現研究Ⅰ

開講学科等：日 | 1年次 | 2単位 | 開講期：前1

大池 公紀 (おおいけ きみのり)

■ 授業の概要

・この授業では、コミュニケーション向上に必要な知識を能動的に学修するとともに、実際にさまざまなスタイルのコミュニケーションを観察したり行ったりすることで、コミュニケーション能力の基礎力をつける。

■ 到達目標

- 1 大学生活で必要となる「話す」「聞く」能力が向上し、TPOに応じた力がつくようになる。
- 2 将来、社会に出た時に通用するようなコミュニケーション能力の基礎を身につけることができる。

研究Ⅰ・Ⅱ」は、日本語学科の専門科目として設定されていることには何ら変更はなかったが、2018年度前期、留学生比率が34.8%と前年の2倍と大きく変化することを受けて、学期進行の途上で「挨拶」の重要性を学修する科目である枠を壊し、外国籍学生がある程度の比率を占める「日本語を媒介にした交流を通して履修学生がコミュニケーション能力を向上させる」科目に変化を遂げざるを得なかった。また、それに伴って2019年度シラバスから2018年度1年間の学修内容の実態を反映させて大きな変更を加えた。

2017年度シラバスと2019年度シラバスを比較すると、「到達目標」に関しては2019年度から「一般目標」と「個別目標」が別々に設定されるようになったことを受けて、この科目の特色化をその個別目標に反映されるようにした。

具体的には、留学生がある程度の割合で履修することを踏まえて、2「日本語を媒介のツールとして、情報を適切に集約・分析・表現ができるようになる。」3「(授業内の) コミュニケーションを通じて、自己の主張を的確に表現し、他者の思考を理解できるようになる。」4「多様な文化を理解し自らの文化を発信できるようになる。」5「対話を通じて他者と協力して目標実現の方向性を示すことができるようになる。」の項目を掲示した。

(3) 2019年度学修スケジュール

① 2019年度前期学修内容

2019年度前期の学修内容(資料2)の柱は、コミュニケーション・ゲームを通して履修学生の間関係を構築し、後期につなげるとことに主眼を置いた。

具体的に概説する。2019年4月16日には、A4プリントの中央に人物の写真を貼り付けてその人物の人生を共同して想定するコミュニケーション・ゲームを設定した。人物写真としては、2018年にはアメリカの俳優ジョニー・デップを素材としたが、周知の学生が多く十分に想像力を働かせてグループ内のイメージ共有ができなかったことを反省し、2019年には昭和初期の作家である林芙美子がタバコを熏らす土門拳による写真を素材に据えた。林芙美子の独特な雰囲気は十分にグループ内で共有され、事後の振り返りでも評価が高かった。

4月23日にはマシュマロ・チャレンジを実施した。このマシュマロ・チャレンジといわれても一般に周知されているプログラムではない。これは、一般企業の研修会等において活用されるチームビルディング・ゲームの1つである。大池は、東京都立高等学校に勤務していた時代から教員研修会や保護者会で活用していた人間関係形成ゲームであった。このゲームの活用を促進するためにも実施方法を以

明海大学 2019年度 管理 ID:190207 本文 ID:190207 [2019/1/28 - 12:31]

日本語表現研究Ⅰ

開講学科等：日 | 1年次 | 2単位 | 開講期：前

大池 公紀 (おおいけ きみのり)

■ 授業の概要

この授業では、コミュニケーション向上に必要な知識を能動的に学修するとともに、実際にさまざまなスタイルのコミュニケーションを観察したり行ったりすることで、コミュニケーション能力の基礎力をつける。

■ 到達目標 (ディプロマ・ポリシー：日本語専攻 J②、GSM J①/J②/J③)

一般目標：1 高校生とは違った、大学生活及びこれからの社会生活で必要となる「話す」「聞く」能力が向上し、TPOに応じた力がつくようになる。

2 将来、社会に出た時に通用するようなコミュニケーション能力の基礎を身につけることができる。

個別目標：1 日本語の運用能力及び専門的知識、日本語教育・国語教育に関する知識と能力を身につけることができるようになる。

2 日本語を媒介のツールとして、情報を適切に集約・分析・表現ができるようになる。

3 コミュニケーションを通じて、自己の主張を的確に表現し、他者の思考を理解できるようになる。

4 多様な文化を理解し自らの文化を発信できるようになる。

5 対話を通じて他者と協力して目標実現の方向性を示すことができるようになる。

下に示す。

ア 用意するもの

乾燥パスタ：20本（世界大会などで推奨されているのは1.7mm）

マスキングテープ：90cm

ひも（どのようなものでも良い）：90cm

マシュマロ（比較的大きなスーパーなどで市販されているアメリカ製）：1はさみ：1

イ ゲームの展開方法

要は、互いに理解を促進させながら、与えられた素材を活用して最も高い立体物を立てることを競うゲームである。

授業内で2ゲームを実施した。第一回目のゲームでは、概して互いのコミュニケーションが十分に取れず、お互いの経験だけを出しあって終了することが多かった。そこで第2回目を設定することで、前回の反省を踏まえた話し合いがされて、より高い立体を構築していくことができることから作為的に2回の実施を図った。

1ゲームは、作戦タイムも含めて20分（世界標準では18分）、自立可能で可能な限り高い塔を作り、最後にタワーの上にマシュマロを置き、その高さを競う。

実施上の条件は、テープで足場を固定することは禁止され、配布されたパスタ、テープ、ひもは切ったり貼ったりすることができる。

ウ 予想されるゲームの効果

参加者が、コミュニケーションを通して互いの持っている知識や経験を出し合い協力して構築することで役割分担やコミュニケーションの重要性を体験的に学ぶことができるゲームである。

本講座では、1グループ5～6名、日本人・留学生、学年の混合を作為的に構成した。

エ 参考

日本マシュマロチャレンジ協会

<http://www.marshmallow-challenge-japan.org>

TED「Tom Wujec:Build a tower, build a team」



写真1



写真2

https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower_build_a_team

5月14日のペーパータワーは、これもマシュマロチャレンジと同じように一般企業の研修などでも使われているチームビルディング・ゲームの1つである。作戦タイム（早く取り掛かろうとするのが通例なので2019年度から5分の作戦タイムを設定した）でどのような立体物を作るかの構想をグループ内で知恵を出し合って考え、次に15分を使って立体物を作成していく展開である。これも授業内で2回の実施を図った。

以上の3つのゲームに関して、人物想像ゲームは

留学生と日本人学生とが互いの日本語を媒介としてイメージ交換することが非常に難しいものがあった。しかし、マシュマロチャレンジやペーパータワーに関しては、構造物を共同で作るという目視できる実態があるためか、日本語を媒介するだけでなく絵文字を書くことやジェスチャーを通して互い同士の知識を持ち寄ることができたようで、活発にやりとりを図っていた。

前期には、他にも「無人島に持っていくならば」や「NASA ゲーム」など学校教育や企業研修で活用されているゲームを駆使して30名前後の学生に柔かい雰囲気を構築することができた。

② 2019年度後期学修内容

2019年度後期は、2つの企画を設定して、個人作業→グループ検討→パワープレゼンポイント作成→プレゼンテーション大会を繰り返した。

ア 第一企画「ニッポンをプレゼンする」

後期の履修学生は、前期に履修していた2年生3名、4年生2名が抜け、それ以外の1・3年生のほぼ85%が後期にも履修をしていた。それを踏まえて学修内容を前期の土壌に上乘せする形で展開をすることが可能となった。このような条件も揃い、第2回目の授業からグループでの展開を指示することができた。

その第一の企画内容は、以下のような「日本を知らない小学生に日本語を紹介する」であった。グループの構成は、これまでの混合型をやめて学年ごとで構成し、12名の留学生は中国とベトナムの2グループに分けた。スケジュール的には厳しいものもあったが、10月29日にはプレゼンテーション大会を実施し、リフレクションカードで評価を実施した。

学生への配布用紙を添付するが、詳細が分かりにくいので以下にまとめる。

i 企画のコンセプト

日本を知らないニュージーランドの小学6年

日本語表現研究Ⅱ 20190924

企画書「ニッポンをプレゼンする」

- 1 コンセプト
日本を知らないニュージーランドの小学6年生に「ニッポンを紹介」する。
- 2 条件1 (内容)
 - (1) 日本の良さ、優れている点、是非とも知ってもらいたいこと、など
 - (2) 日本の悪さ、ここは修正すべきことなど
良い面だけではなく、ダーク dark な面も取り入れる。大学生として「大学生らしい」発表をする。
- 3 条件2 (プレゼンテーションに関して)
 - (1) 学年ごとにグルーピングする
 - (2) 模造紙を使用する(どうして ppt ではないのか? Ppt は仕事が一人に集中する)。
 - (3) 班員全員が発言し説明をする。各グループで魅力的なプレゼンテーションを期待する。
 - (4) 模造紙以外にチラシ等を配布しても可とする。授業開始前に渡してもらえれば印刷する。
 - (5) 対象がNLの人ではあるが、ここは日本語でプレゼンする。
- 5 今後の予定
 - (1) 9月24日～10月15日 プレゼン準備1 (内容調査・検討)
 - (2) 10月15日～22日 プレゼン準備2 (資料作成)
 - (3) 10月29日 11:00より各グループによるプレゼンテーション (10分/G)
- 6 評価方法
- 7 賞品 (を出す予定!) 企画広報課に行って「明海グッズ」を手に入れてくる!
- 8 その他 くれぐれも一人二人で進めない。
グループの全員が参加していることが評価の対象です。

生に「ニッポンを紹介」する。

ii 条件1 (内容)

- * 日本の良さ、優れている点、是非とも知ってもらいたいこと、など
- * 日本の悪さ、ここは修正すべきことなど良い面だけではなく、ダーク dark な面も取り入れる。大学生として「大学生らしい」発表をする。

iii 条件2 (プレゼンテーションに関して)

- * 学年ごとにグルーピングする
- * 模造紙を使用する(どうして ppt ではないのか? Ppt は仕事が一人に集中する)。
- * 班員全員が発言し説明をする。各グループで魅力的なプレゼンテーションを期待する。
- * 模造紙以外にチラシ等を配布しても可とする。授業開始前に渡してもらえれば印刷する。
- * 対象がNLの人ではあるが、ここは日本語でプレゼンする。

iv 今後の予定

- * 9月24日～10月15日

プレゼン準備1 (内容調査・検討)

* 10月15日～22日

プレゼン準備2 (資料作成)

* 10月29日 11:00より各グループによる
プレゼンテーション (10分/G)

プレゼン終了後のリフレクションシートでも、10月29日に至るまでの5回の授業を通して「この企画を十分に楽しんだ」「留学生といろいろな話ができた、例えばゲームなど」の評価が残っている。日本語を媒介として交流することは、十分にできたと考える。

11月5日、12日 再びペーパータワー、マシュマロチャレンジを実施することでマンネリ化する意識の一新を図った。そして11月19日から次のプログラム「人の人生から何かを学ぶ」企画を提案した。

イ 第二企画「人の振り見て我が振り直す」

前期から後期にかけて明海大学への帰属意識を深化させるチームビルディング・ゲームを中心に展開し、テーマを決めたグループ・プレゼンテーションを複数回展開する中で、留学生との交流が促進されながらも若干表面的なやりとりが交わされてきた危惧を感じていた。リフレクションシートにはそのような文言はなかったが、お互いの人生観に触れる、もう一步踏み込んだ企画を実現したいと願っていた。

そこで、11月19日には新たに他人の人生から何かを学ぶプログラムを開発し「人の振り見て我が振り直す」として提案をした。

留学生を交えたグループの中で互いの人生を語り、何か学べることのありそうな人物の人生を他の履修学生に紹介する企画である。

11月19日は、企画の主旨説明をするとともに個人ワークシート（幼少期から明海大学までの人生を振り返る A4 のプリント）を完成させた。この時間を 40 分程度十分に取じつくりと記入さ

せた。

11月26日に留学生を交えたグループを構成し、個人発表の準備を5分設定した後に、グループ内個人プレゼンテーション各10分（プレゼン後の質疑も含む）を実施した。この個人プレゼンテーションを通して、他のグループにも紹介すべき人物、人が興味を持ちそうな人物を特定し、11月9日にあらためてその人物、インタビューの人物像を明らかにした。この時間の中で、中国やベトナムから留学生として本学にやってきた学生たちが、どのような苦労を重ねながら本学にたどり着いたかの話を聞いた日本人学生たちは、改めて留学生の学びに向かう志の高さを感じることができたようだ。

12月9日からの3回は、インタビューの深掘りをする事やプレゼン資料を作成する時間に当てた。インタビューには、当然「答えられない」「答えたくない」項目もあり、そのような際には明確に拒否しても良いと具体的に指示を出した。また、インタビュアーにも質問の内容が少

日本語表現研究 2 20191112

企画書「人の振り見て我が振り直す」

個人個人の紹介のためにパワーポイントを創ってもらうことはこの講座の人数が多いことを理由に放棄しました。その結果、新しい企画を提案します。

- 1 企画のコンセプト
人の人生を聞いてその中から「人生の教訓」を手にし、万民に紹介する。
- 2 作業手順
 - (1) 個人ワーク 自分の人生を生まれたところまで遡ってワークシートに振り返る（その中で、「人生の教訓」を見つけ出す）。
 - (2) グループを作って、ワークシートを元に一人一人の人生を語る。
 - (3) グループ内で、これはという「(人に紹介すべき) 人生」を見つけ出し計画を立てる。
 - (4) 「(語るべき) 人生」の詳細をグループメンバーは聞き出し、それを元にパワーポイント（以下 ppt）を作成する。
 - (5) プレゼンテーション 1グループ 15分
条件1 「語られる人」は、資料（写真、通信簿など）のみを提供し、ppt 作成には関わらない。語るのは、インタビュアーであるグループの他のメンバーである。
2 ppt には、その「人生」に関わる大学生らしい統計資料を2つ添付する。
Ex 国際人口統計、血液型分布図、地域年間温度変化、などなど
3 ppt に関わる統計資料は、当日配布します。12月16日（月）までに大池まで提出してください。
 - 4 プレゼンのまとめとして「人生の教訓」を見つけ出し、普遍化する。
- 3 スケジュール

| | |
|------------|---------------------|
| 作業 (1) (2) | 11月12日 |
| 作業 (3) (4) | 11月26日・12月3日・12月10日 |
| 作業 (5) | 12月17日 |

*11月19日は、マシュマロ・チャレンジを実施予定
- 4 賞品（を出す予定） 企画広報課に行って「明海グッズ」を手に入れてくる！
- 5 その他 くれぐれも一人二人で進めない、グループの全員が参加していることが評価の対象です。

しずつ深まるとともに「質問できること」「できないこと」の差異を判断することができるようになった。進行する中でグループ内の役割分担が明確化された。語ることを得意とする学生がいれば、インタビューすることを得意とする学生、PowerPoint等のプレゼン資料作りを得意とする学生がおり、改めて互いの個性を知るようになった。資料作成では、インタビューから写真や動画、中にはYouTubeに上がっている資料の提供を受け、完成度の高いものが作られた。インタビューに拒否権があることを指導したが、驚いたことに展開していくなかで質問される側に立つ人物たちはインタビューに快く応え、よく語っていた。これは、学生（に限らず、人間）には自分のことを知ってもらいたい欲、認めてもらいたい欲が潜在的にあり、この機会を通してその欲が満たされた充足感が与えられたことによると考えられる。

出来上がった5グループの作品の内、1作品は台湾からの留学生の人生、それ以外は日本人学生1年2作品、3年2作品であった。作品のプレゼンの際には、若干の恥ずかしさを感じながらも語られる人物は、中央でメンバーからの発表を受けた。以下にそれらの作品の中から2つの作品の一片を貼り付けた。

下記は、九州の県立海洋学科高等学校を卒業して本学にやってきた学生の人生を語るPowerPointであるが、海洋学科の存在の驚きとグアム

までの海上実習のために太平洋を小さな船で航行することの凄さが、動画を活用しながらインタビューから語られた。右記は、台湾からの留学生の人生の一片であり、アニメがきっかけではあっても憧れの日本で学ぶために精力的にアルバイトに励み、その強い思いを実現する人物の大きさが語られた。

一人一人の発表が終わると周囲から大きな拍手が寄せられた。自らの人生を語られた人物は、少しはにかみながらも恥ずかしそうに席に戻るその姿に学生たちの心優しさを感じることができた。授業後のリフレクションシートには、「授業を通して留学生の学習意欲の高さを感じることができた」「留学生と接したことがない学生が多い中で、良い機会を持つことができた」「(日本人学生も)様々な人生を抱えながらやってきていることの不思議を感じる」というコメントがあった。プレゼンでの5人の事例だけではなく、同じ教室に集う留学生・日本人学生全員が現在まで様々な人生を辿りながらここに居ることを感じることができた授業空間になれた。

Ⅲ 新型コロナウイルスと2020年度学修内容

— まとめて代えて —

2017年度に大池が担当して以来、本学外国語学部日本語学科ポリシーを踏まえながら、履修学生層

小学校→江南小学校（各学年6クラスのマンモス小学校）

- ・夢：マグロ漁師
- ・水泳とバレーをやっていた
- ・バレーは県選抜の選手だった
- ・屋休みはケイドロ・ふえおに（ソソビおに）
- ・好きだった給食は
カレーうどん・クリスマスチキン
- ・足が遅かった



in日本語学校

日本語を学びたいという目標
国籍が違う
色んな人とたくさん話して
人のかかわりに
自信を持てるようになった



の変化を受け試行錯誤を繰り返しながら2019年度の前期・後期で一つの授業構想が完成できた。次年度以降も2019年度のプログラムを微調整しながらこのゴールデンルールの上に則っていく堅牢な方向性を見つけ出すことができたことと大池は実感していた。

しかし、2019年末に発症した新型コロナウイルスによって、予想もしなかった大きな変化を求められた。2020年度は、全てが「コロナ」に集約される一年であった。コロナによって失われたものもあれば、新しく得た知見もあった。本学は、新型コロナウイルスの広がりによって4月3日に挙行される予定であった入学式は20日に延期になり、4月7日の第一回緊急事態宣言の発出によって5月6日まで臨時休校となったことで、入学式は中止され授業開始は5月7日からとなった。授業も対面授業からmanabaシステムを活用した遠隔リモート授業に舵をとることで様相は大きく変化した。

6月15日には一部授業で対面授業の復活があったが、社会状況を鑑み7月には再び全面的遠隔授業

となった。この3週間に関しては極めて稀有な事例として対面授業が実現され、講義内容も従来のコミュニケーション能力の向上を図る授業が実現できたが、再びその扉は閉ざされた。2020年度後期は、一部必修科目及び教職科目を除いて全てが遠隔授業で年度を終了した。

授業者の大池も遠隔授業展開に変わることで工夫が迫られた。対話型のチームビルディング・ゲームを多用しながらアクティブラーニング形式で対面授業の良さを重視してきた学修方法を大きく変更せざるを得なかった。また、前期は、manabaシステムのクラウドにあげる容量の制限が厳しく、PowerPointやZoomを駆使しながらも満足できる資料を作ることができず四苦八苦したが、後期は全時間YouTubeを活用することでスムーズにやりとりができるようになった。ここら辺の授業の変遷と工夫は、今回の紀要に委ねることとする。2001年以降も2019年度のプログラムを修正しながらコミュニケーション能力の向上の講座を進めていく所存である。

| 日本語表現研究Ⅰ・Ⅱ 履修者変遷 | | | | | | 資料 1 | | |
|------------------|------|--------|-----------|------|--------|---------|------|--------|
| 2017 年度前期 | | | 2017 年度後期 | | | 2017 統合 | | |
| 学年 | 履修学生 | 留学生 | 学年 | 履修学生 | 留学生 | 学年 | 履修学生 | 留学生 |
| 1 | 10 | | 1 | 14 | 3 | 1 | 24 | 3 |
| 2 | 0 | | 2 | 1 | | 2 | 1 | 0 |
| 3 | 4 | | 3 | 5 | | 3 | 9 | 0 |
| 4 | 2 | 1 | 4 | 2 | 1 | 4 | 4 | 2 |
| 合計 | 16 | 1 | 合計 | 22 | 4 | 合計 | 38 | 5 |
| % | | 6.25% | % | | 18.18% | % | | 13.16% |
| 2018 年度前期 | | | 2018 年度前期 | | | 2018 統合 | | |
| 学年 | 履修学生 | 留学生 | 学年 | 履修学生 | 留学生 | 学年 | 履修学生 | 留学生 |
| 1 | 13 | 2 | 1 | 8 | 1 | 1 | 21 | 3 |
| 2 | 3 | 2 | 2 | 1 | | 2 | 4 | 2 |
| 3 | 4 | 1 | 3 | 4 | | 3 | 8 | 1 |
| 4 | 3 | 3 | 4 | 1 | | 4 | 4 | 3 |
| 合計 | 23 | 8 | 合計 | 14 | 1 | 合計 | 37 | 9 |
| % | | 34.78% | % | | 7.14% | % | | 24.32% |
| 2019 年度前期 | | | 2019 年度前期 | | | 2019 統合 | | |
| 学年 | 履修学生 | 留学生 | 学年 | 履修学生 | 留学生 | 学年 | 履修学生 | 留学生 |
| 1 | 23 | 9 | 1 | 29 | 12 | 1 | 52 | 21 |
| 2 | 3 | 2 | 2 | 0 | | 2 | 3 | 2 |
| 3 | 5 | 1 | 3 | 5 | | 3 | 10 | 1 |
| 4 | 2 | 0 | 4 | 0 | | 4 | 2 | 0 |
| 合計 | 33 | 12 | 合計 | 34 | 12 | 合計 | 67 | 24 |
| % | | 36.36% | % | | 35.29% | % | | 35.82% |
| 2020 年度前期 | | | 2020 年度前期 | | | 2020 統合 | | |
| 学年 | 履修学生 | 留学生 | 学年 | 履修学生 | 留学生 | 学年 | 履修学生 | 留学生 |
| 1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 |
| 2 | 3 | 3 | 2 | 1 | | 2 | 4 | 3 |
| 3 | 9 | 5 | 3 | 15 | 4 | 3 | 24 | 9 |
| 4 | 3 | 0 | 4 | 3 | | 4 | 6 | 0 |
| 合計 | 15 | 8 | 合計 | 21 | 5 | 合計 | 36 | 13 |
| % | | 53.33% | % | | 23.81% | % | | 36.11% |

| 2019 日本語表現研究Ⅰ・Ⅱ | | 学習スケジュール | | 火曜日 | 2時限 | 資料2 |
|-----------------|----------|----------|---|-------------|--------------|---------------|
| 回数 | 授業日時 | 準備完了 | 主課題(内容)トピックス | 課題(テーマ) | テキスト | |
| | | | | | 「使うことば」研究社 | その他(学修ツール など) |
| 前期 | | | | | | |
| NO1 | 20190409 | ✓ | 1 ガイダンス 2 日本語でつながるあ 3 自己紹介 | | - | - |
| NO2 | 20190416 | ✓ | 1 コミュニケーションの意味 2 G 人物想像ゲーム(写真を見て人物の生き方を想像する) | | | 個人作業+グループ |
| NO3 | 20190423 | ✓ | マシュマロチャレンジ G 1 ゲーム1 2 ゲーム2 3 リフレクション | リフレクションカード | | グループ |
| NO4 | 20190507 | ✓ | 1 メディアセンターへ行こう! 2 グループまとめ | | 第1課(P1-2) | グループ |
| NO5 | 20190514 | ✓ | 1 ベーパータワー | リフレクションカード | 第2課(P3-4) | グループ |
| NO6 | 20190521 | ✓ | 1 ダイヤモンドランキング | - | 第3課(P5-6) | 個人作業+グループ |
| NO7 | 20190528 | ✓ | ニッポンを旅する1(大池主旨説明) 1 主旨説明 2 大池例示 個人作業→プレゼン準備 | - | 第4課(P7-8) | 個人作業+グループ |
| NO8 | 20190604 | ✓ | ニッポンを旅する2(プレゼン準備1) | 企画書提出 | 第5課(P9-10) | グループ |
| NO9 | 20190611 | ✓ | ニッポンを旅する3(プレゼン準備2) | プレゼン構想書提出 | 第6課(P11-12) | グループ |
| NO10 | 20190618 | ✓ | ニッポンを旅する4(プレゼン準備3) | プレゼン構想書提出 | 第7課(P13-14) | グループ |
| NO11 | 20190625 | ✓ | ニッポンを旅する5(プレゼン大会) | リフレクションカード | | グループ |
| NO12 | 20190702 | ✓ | 1 無人島に持っていくならば | | 第8課(P15-116) | 個人作業+グループ |
| NO13 | 20190709 | ✓ | 1 NASAゲーム | リフレクションカード | 第9課(P17-18) | 個人作業+グループ |
| NO14 | 20190716 | ✓ | 1 座席当てゲーム | | 第10課(P19-20) | 個人作業+グループ |
| NO15 | 20190723 | ◎ | 1 マシュマロチャレンジ 2 前期リフレクション | リフレクションカード | | グループ+個人作業 |
| 後期 | | | | | | |
| NO1 | 20190917 | ◎ | ガイダンス 1 前期振り返り 2 人間関係づくり(写真を見て物語を作る) | 個人ワークシート 提出 | | 個人作業+グループ |
| NO2 | 20190924 | ◎ | 「ニッポンをプレゼンする」1 1 留学生にニッポンをプレゼンする 2 主旨説明 | | | |
| NO3 | 20191001 | ◎ | 「ニッポンをプレゼンする」2 1 個人ワークシート 作成 2 グループ内プレゼン | 個人ワークシート 提出 | | 個人作業+グループ |
| NO4 | 20191008 | ◎ | 「ニッポンをプレゼンする」3 1 グループ討議 2 プレゼンテーション作成 | | 第11課(P21-22) | グループ |
| NO5 | 20191015 | ◎ | 「ニッポンをプレゼンする」4 1 プレゼンテーション作成 | | 第12課(P23-24) | グループ |
| NO6 | 20191029 | ◎ | 「ニッポンをプレゼンする」5 1 プレゼンテーション大会 | リフレクションカード | 第13課(P25-26) | グループ |
| NO7 | 20191105 | ◎ | 1 ベーパータワー | | 第14課(P27-28) | グループ |
| NO8 | 20191112 | ◎ | 1 マシュマロチャレンジ | | 第15課(P29-30) | グループ |
| NO9 | 20191119 | ◎ | 「人の人生から何かを学ぶ」1 1 主旨説明 2 個人ワークシート 作成 | 個人ワークシート 提出 | | 個人作業+グループ |
| NO10 | 20191126 | ◎ | 「人の人生から何かを学ぶ」2 1 グループ内プレゼン 2 グループ内討議・決定 | | - | グループ |
| NO11 | 20191203 | ◎ | 「人の人生から何かを学ぶ」3 1 ヒアリング1 2 作成作業1 | | 第16課(P31-32) | グループ |
| NO12 | 20191210 | ◎ | 「人の人生から何かを学ぶ」4 1 ヒアリング2 2 作成作業2 | | 第17課(P33-34) | グループ |
| NO13 | 20191217 | ◎ | 「人の人生から何かを学ぶ」5 1 ヒアリング3 2 作成作業3 | | 第18課(P35-36) | グループ |
| NO14 | 20191224 | ◎ | 「人の人生から何かを学ぶ」6 1 クリスマスだからプレゼン大会 | リフレクションカード | - | グループ |
| NO15 | 20200114 | ◎ | 1 前期・後期のリフレクションとまとめ | リフレクションカード | - | グループ+個人作業 |

2017年度「日本語表現研究Ⅰ（前期）」シラバス

明海大学 2017年度 管理 ID:170206 本文 ID:170206 [2017/3/7 - 16:8]

日本語表現研究Ⅰ

開講学科等：日 | 1年次 | 2単位 | 開講期：前1

大池 公紀 (おおいけ きみのり)

■ 授業の概要

・この授業では、コミュニケーション向上に必要な知識を能動的に学修するとともに、実際にさまざまなスタイルのコミュニケーションを観察したり行ったりすることで、コミュニケーション能力の基礎力をつける。

■ 到達目標

- 1 大学生活で必要となる「話す」「聞く」能力が向上し、TPOに応じた力がつくようになる。
- 2 将来、社会に出た時に通用するようなコミュニケーション能力の基礎を身につけることができる。

■ 履修条件

毎回、実際にコミュニケーション活動を行うので、毎回出席し、積極的に授業に参加すること。教科書は、2回目の授業までに必ず購入しておくこと。

■ 評価基準・方法

発表 (60%)、期末テスト (20%)、小テスト (20%)。5分の4以上の出席を評価の対象とし、欠席は減点する。

■ 教科書

「コミュニケーション技法—自分を大きく見せる話し方—」(ウイネット)、『使うことば—大学生、社会人の日本語応用力を伸ばす—』(研究社)

■ 参考書

「一生使える、美しい日本語と敬語」(PHPビジュアル実用 BOOKS)

■ 授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

| | |
|----|--|
| 1 | 授業内容：オリエンテーション 事前学修 0.5hr：講義概要を読んで本講義の概要をつかむ。 事後学修 1.0hr：教科書を購入し、全体の構成や概要を理解する。 |
| 2 | 授業内容：コミュニケーションの目的を知る 事前学修 2.0hr：教科書 1章を読む。 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り指定された教科書の問題をする。 |
| 3 | 授業内容：自分の話し方を見直す 事前学修 2.0hr：次回小テストのための準備をする。 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り指定されたプリント問題をする。 |
| 4 | 授業内容：現代の日本語を考える（若者言葉とバイト言葉） 事前学修 2.0hr：次回小テストのための準備をする。 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り指定された教科書の問題をする。 |
| 5 | 授業内容：正しい言葉遣いを知る—大学生活で— 事前学修 2.0hr：次回小テストのための準備をする。 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り指定された教科書の問題をする。 |
| 6 | 授業内容：正しい言葉遣いを知る—ビジネス場面で— 事前学修 2.0hr：次回小テストのための準備をする。 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り指定されたプリント問題をする。 |
| 7 | 授業内容：ビジネス会話の慣用表現を知る 事前学修 2.0hr：次回小テストのための準備をする。 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り指定されたプリント問題をする。 |
| 8 | 授業内容：聞くことの重要性を知る 事前学修 2.0hr：次回小テストのための準備をする。 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り指定された教科書の問題をする。 |
| 9 | 授業内容：効果的なプレゼンテーションを考える 事前学修 2.0hr：次回小テストのための準備をする。 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り指定されたプリント問題をする。 |
| 10 | 授業内容：5W2Hで話す 事前学修 2.0hr：次回小テストのための準備をする。 事後学修 2.0hr：発表準備をする。 |
| 11 | 授業内容：ナンバリングを使って話す 事前学修 2.0hr：次回小テストのための準備をする。 事後学修 2.0hr：発表準備をする。 |
| 12 | 授業内容：主—話—主を意識して話す 事前学修 2.0hr：次回小テストのための準備をする。 事後学修 2.0hr：発表準備をする。 |
| 13 | 授業内容：AIDMAを使って話す 事前学修 2.0hr：次回小テストのための準備をする。 事後学修 2.0hr：発表準備をする。 |
| 14 | 授業内容：まとめ 1：コミュニケーションについての知識を確認する 事前学修 2.0hr：次回小テストのための準備をする。 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り指定されたプリント問題をする。 |
| 15 | 授業内容：まとめ 2：自分の話し方の変化を確認する 事前学修 3.0hr：まとめテストのための準備をする。 事後学修 1.0hr：まとめテストで出来なかった点を確認復習する。 |

2020年度「日本語表現研究Ⅰ（前期）」シラバス

明海大学 2020年度 管理 ID:200146 本文 ID:200146 [2020/1/13 - 22:31]

日本語表現研究Ⅰ

開講学科等：日 | 1年次 | 2単位 | 開講期：前

大池 公紀 (おおいけ きみのり)

■ 授業の概要

1 この授業では、コミュニケーション向上に必要な知識を能動的に学修するとともに、実際にさまざまなスタイルのコミュニケーションを観察したり行ったりすることで、コミュニケーション能力の基礎力をつける。

2 前期「日本語表現研究Ⅰ」後期「日本語表現研究Ⅱ」は、継続科目であるので継続して履修することが望ましい。

■ 到達目標 (ディプロマ・ポリシー：日本語専攻 J ②、GSM J ①/J ②/J ③)

- 一般目標：1 大学生活及びこれからの社会生活で必要となる「話す」「聞く」能力が向上し、TPO に応じた力がつくようになる。
2 将来、社会に出た時に通用できるように様々な表現技法をコミュニケーション能力の基礎を身につけることができる。
- 個別目標：1 日本語の運用能力及び専門的知識、日本語教育・国語教育に関する知識と能力を身につけることができるようになる。
2 日本語を媒介のツールとして、情報を適切に集約・分析・表現ができるようになる。
3 コミュニケーションを通じて、自己の主張を的確に表現し、他者の思考を理解できるようになる。
4 多様な文化を理解し自らの文化を発信できるようになる。
5 対話を通じて他者と協力して目標実現の方向性を示すことができるようになる。

■ 履修条件

毎回、実際にコミュニケーション活動を行うので、毎回出席し、積極的に授業に参加する。

前期「日本語表現研究Ⅰ」の継続科目であるので、継続して履修することが望ましい。

■ 評価基準・方法

発表 (60%)、期末テスト (20%)、小テスト (20%)。講義への参画姿勢も評価の対象とする。5分の4以上の出席を評価の対象とし、欠席は減点する。

■ 教科書

「使うことは—大学生、社会人の日本語応用力を伸ばす—」(研究社)(後期「日本語表現研究Ⅱ」の履修者は継続使用である)

■ 参考書

適宜授業の中で配布もしくは指示する。

■ 授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

| | |
|----|--|
| 1 | 授業内容：オリエンテーション 講義の概要と進め方 事前学修 1.0hr：講義概要を読んで本講義の概要をつかむ。授業を通じてコミュニケーション能力の向上が求められる必然性を検討する。 事後学修 1.0hr：全体の構成や概要を理解し、次回以降のプレゼンテーションの準備に入る。 |
| 2 | 授業内容：様々な表現技法とプレゼンテーション —表現方法としての起承転結— 事前学修 1.0hr：先の授業内容を振り返り、指定された課題を検討する。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り指定されたプリント問題を解く。 |
| 3 | 授業内容：事実に基づいた説明文を書く 1 —目的に応じてグラフや表を分かりやすく説明する— 事前学修 1.0hr：指定された課題を検討し、小テストのための準備をする。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り指定されたプリント問題を解く。 |
| 4 | 授業内容：事実に基づいた説明文を書く 2 —具体的な数値を示して社会の動きを説明する— 事前学修 1.0hr：指定された課題を検討し、小テストのための準備をする。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り指定されたプリント問題を解く。 |
| 5 | 授業内容：説得力のある意見文を書く 1 —様々な視点から意見を書く— 事前学修 1.0hr：次回小テストのための準備をする。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り指定されたプリント問題を解く。 |
| 6 | 授業内容：説得力のある意見文を書く 2 —根拠に基づいた反対意見を書く— 事前学修 1.0hr：指定された課題を検討し、小テストのための準備をする。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り指定されたプリント問題を解く。 |
| 7 | 授業内容：これまでの学修を元にプレゼンテーションツールを構成する 1 事前学修 1.0hr：指定された課題を検討し、小テストのための準備をする。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り指定された課題とプレゼンテーションの準備をする。 |
| 8 | 授業内容：これまでの学修を元にプレゼンテーションツールを構成する 2 事前学修 1.0hr：指定された課題を検討し、小テストのための準備をする。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り指定された課題とプレゼンテーションの準備をする。 |
| 9 | 授業内容：プレゼンテーションの準備 1 事前学修 1.0hr：指定された課題を検討し、小テストのための準備をする。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り指定された課題とプレゼンテーションの準備をする。 |
| 10 | 授業内容：プレゼンテーションの準備 2 事前学修 1.0hr：指定された課題を検討し、小テストのための準備をする。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り指定された課題とプレゼンテーションの準備をする。 |
| 11 | 授業内容：プレゼンテーション 1 事前学修 1.0hr：指定された課題を検討し、小テストのための準備をする。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り指定された課題とプレゼンテーションの評価をする。 |
| 12 | 授業内容：プレゼンテーション 2 事前学修 1.0hr：指定された課題を検討し、小テストのための準備をする。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り指定された課題とプレゼンテーションの評価をする。 |
| 13 | 授業内容：プレゼンテーション 3 事前学修 1.0hr：指定された課題を検討し、小テストのための準備をする。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り指定された課題とプレゼンテーションの評価をする。 |
| 14 | 授業内容：自己と他者のプレゼンテーションを比較検討してまとめる 事前学修 1.0hr：指定された課題を検討し、小テストのための準備をする。 事後学修 1.0hr：授業内容を振り返り指定された課題とプレゼンテーションの評価をする。 |
| 15 | 授業内容：まとめ コミュニケーションについての知識を確認し、自分の話し方の変化を検証する 事前学修 1.0hr：指定された課題を検討し、まとめテストと今講義の全体を検証する。 事後学修 1.0hr：全授業内容を振り返り、プレゼンテーション能力の向上を評価する。 |